

平成20年10月15日
西地整発第 76 号

国土交通省道路局長 様

島根県隠岐郡西ノ島町浦郷534
西ノ島町長 扇 谷



今後の道路行政についての意見・提案について
(回 答)

このことについて、平成20年9月19日付 国道企第37号で依頼がありましたので、下記の様式にて回答致します。

記

- 1、 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など 様式①
- 2、 地域の現状と抱える課題 様式②
- 3、 地域の目指すべき将来像 様式③
- 4、 道路施策の重点事項 様式④

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

西ノ島町

1. 道路特定財源の一部を活用した交付金制度を創設し、離島航路の安定を図る。

「離島航路」は、島民の生活や経済を支える根幹であり、「生活道」の機能を果たし、無くては成らない生命線である。

2. 費用対効果（B／C）による都市部に有利で、偏向的な道路計画の見直しを図る。

普通乗用車間の「すれ違い」が出来ない生活道が田舎には沢山あります。その田舎の人達は、毎日の買い物・農林水産物の出荷・通勤・通学等の為に、唯一の生活道を通行しなければ、生活が成立ちません。こうした現実を無視し、費用対効果の名の下で優劣を行う方法は、人が人として生きる「生存権」や「向上心」を否定したものである。

3. 大規模バイパス道路や高速道路への重点予算配分を改める。（極小道路へも光を・・・）

住民が本当に望む小さな拡幅工事や補修工事にも重点配分し、幅〇〇m以上・総事業費〇〇億円以上の道路計画でなければ国庫補助金が出ない制度の改定を行う。地方の事は、地方の裁量や地域性を重視し、要綱等の緩和を進める。

② -1 地域の現状と抱える課題

西ノ島町

○現状	○課題
1. 国道と県道以外の生活道は、離島という地理的条件や予算措置が主な原因で、一車線及びすれ違いが出来ない「町管理道」が大半を占める。 2. 国道・県道については、国庫補助事業も優先的に進められ、町の負担金も少なく、徐々にではあるが二車線化へ整備される方向である。しかし、末端集落への生活道や交通量が極端に少ない「町管理道」は、低規格が改善できない。 3. 田舎の中の田舎である交通が不便な地区では、超高齢化・無店舗・耕作放棄地の拡大・空家の増加等が年々増え、僅かなI・Uターン家族も子供の通学や病院通いへの経路を考えれば、新しく住むことは、殆ど無に等しい。 4. 「町管理道」の改良・改築に対し、住民から強い要望が出るが、財源や起債制限等を考慮となれば、高齢化に向けた福祉や医療対策及び離島の定めである海上交通（隠岐汽船・内航船等）に予算配分を行う必要があり、一般財源を伴う道路整備への重点配分は困難である。	1. 近くの本土側に、大規模経済エリアを控える大都市が無い離島では、農林水産物の輸送や観光客の受入れ等で、輸送費と交通費の割高や時間的ロスが大きな弊害となり、地域の活性化プロジェクトや町おこし策に、大変苦慮している。その中で島内の道路整備が島の利益に対し、直接的又は間接的に、どのように作用するか？十分に検証する必要がある。 2. 群島であり隠岐諸島の一部である当町は、他の島（町・村）や本土側の行政と海上交通体系を主軸として、協働発展が理想である。しかし、それぞれの行政は、財政難と産業の低迷が共通であり、産業振興と発展性を唱えた話合いの中で、結果的に利己的な主張が前面に出て、連携強化が急務である。

② -2 地域の目指すべき将来像

西ノ島町

21 世紀を迎えた本町は、急速に進む少子高齢化、過疎化の進行、社会・経済環境の激変、人々の価値観や意識変化、高度情報社会の到来、地方分権化等、従来とは大きく異なる状況にある。こうした中で、将来の本町の進むべき方向を考えた場合、まちづくりの目標は、何よりも町民自身の「しあわせ」に結びつくものではない。本町が有する資源を活かし、町民と行政が一体となり、町民一人ひとりが「いきいき暮らし、喜び、誇りのもてる町」と実感し、「生涯を現役で過ごせる町」となるような「まちづくり」を目指している。

このような考え方を念頭に置き、本町の目指すべき将来像を述べる。

西ノ島町に住む人、自然、歴史、文化、産業、あらゆるもの全ては西ノ島構築の源泉であり、将来を創造していく大切な資源である。これからのまちづくりには、こうした大きな可能性を有する個々の資源の発展を図りながら、より大きな飛躍のために、複数の資源を様々な形で組合せ、協力させることにより、新たな可能性と潜在能力を引出すこと、すなわち、コラボレーションの推進が必要となっている。コラボレーションの推進には、各分野の資源を有機的に結びつけることができる「ひと」づくりと、互いに磨き育み、恩恵を与え受け、人が人を育むような「人と人のつながり」が全ての根底である。本町の未来は、創造性豊かな「ひと」づくりを基盤とした「人と人のつながり」の中に存在するという思いを込めて、本町の将来像は、“人と人がつなぐ未来への架け橋”である。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

西ノ島町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
国庫補助事業等の要綱 （採択基準等）の規制 緩和		国から配分される補助金・交付金には多くの規制があり、住民が望むハード的な結果を残すには、あるていどの規則緩和が必要である。全ての規制を取り払う事ではないが、地方の裁量（県・市町村）を拡大させ、住民のニーズを優先した「ものづくり」と地方財政の儉約を図る。	